

ワークショップ2

「炎症性腸疾患における内科・外科間の診療連携」

司会 池内 浩基（兵庫医科大学炎症性腸疾患外科）

石原 俊治（島根大学医学部内科学講座（内科学第二））

IBD に関する薬物療法の進歩は著しく、UC の場合、難治で手術となる症例は減少傾向である。ただ、高齢発症の UC 症例は増加しており、急速に進行する症例があることも報告されている。医療経済も考えながら、内科的治療の限界を見極めることが重要になっている。一方、CD も狭窄症例に対する内視鏡的バルーン拡張術の有用性は明らかであるが、拡張が困難な症例や、瘻孔・膿瘍症例に関しては手術が先行される。また、その後の内科的治療は再手術を減少させるためには重要である。活発な討論を期待しています。